民主香川

定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
３丁目13－14
☎(087)834-7311

新年号
12月第４週、１月第１週の合併号

新年のごあいさつ

日本共産党香川県委員会
委員長　**中谷　浩一**

新年あけましておめでとうございます。

昨年の参院選挙では、白川容子さんを参議院へ送ることができました。また11月の観音寺市議選挙では現有議席を確保することができました。みなさんのご支援に心より感謝いたします。

高市政権は、政権の座につくために極右や排外主義者と手を結び、さらに「中国＝敵」論をふりかざして世論を煽（あお）っています。自らの延命のためには手段を択ばない醜悪な姿をさらしています。また公明党や国民民主党は、補正予算に賛成して補完勢力としての正体が露呈しました。年末になって高市政権は、大軍拡のための所得税増税を打ち出し、政府高官の「核保有発言」など、危険な発言が相次いでいます。

物価高への有効な対策は消費税減税しかありません。また、高市首相の「台湾問題」発言の撤回と、日中関係の再構築が必要です。

国民のくらしや平和を破壊するこうした逆流の暴走は、彼らの深刻なゆきづまりを示したもので、国民との厳しい矛盾は一層深刻になるでしょう。

私たちは自民党政治の流れを変えるたたかいをすすめるとともに、総選挙をはじめ、1月の三豊市などの中間選挙での勝利に向け、全力で頑張ります。

いっそうご支援いただけるようお願いいたします。

白川ようこ子参院議員
新年のごあいさつ

2026年新しい年が明けました。私は午年生まれ。しかも丙午（ひのえうま）の年で、情熱や変化を象徴する年だとも言われています。60年に一度のこの年に政治の変化をおこすため情熱を尽くす決意です。

昨年は参院選で国政に送っていただき、臨時国会の厚労委員会で医療や生活保護「医療法」の法案審議など6回の質疑に挑みました。各地でお聞きした現場の声・いのちの声を届ける活動のスタートをきりましたが、現場の声ほど強いものはないと確信しました。

臨時国会での「医療法」改定は、とても足りない病院のベッドを1ベッド減らせば410万円も出している「削減補助金」を法律で位置付け、更なる病院潰しや、診療所の新規開業もままならなくさせる内容が決められてしまいました。

通常国会は今月中下旬からはじまる予定ですが介護保険や労働法、高齢者医療の負担増、OTC類似薬の保険外し等、厚労委員会でも問題が山積みです。大軍拡に熱中する高市自維政権のもとで、命や暮らしが削られ衆議院議員の議席数も1割削減で民主主義を踏みにじる勝手放題なやり方で削ぎ取ろうとしています。

こんな政治を今年こそ変えましょう！　昨年末衆院四国比例ブロックの予定候補として、高知県の「中根こうさく」さんを発表しました。中根さんは3児のお父さん。高知地区委員会で一人ひとりに寄り添う活動を続けてきた方です。私も中根さんと力を合わせて、政治刷新へ向かいます。

大鼓台

昭和29年、1954年生まれの午年、知らぬ間に干支が6回もまわってしまった。

思い起こせば高校生の頃までは高度成長の時代だった。しかし大学に入った年にオイルショック。同年、香川県は高松砂漠と称する深刻な水不足に襲われた。そして、スタグフレーションが進む中でケインズ経済学は影響力を失い、就職して80年代になると新自由主義が世の中を席巻。バブル経済が崩壊し、その後の「失われた30年」で国際的地位も低下した。更に、安倍内閣以降急速に進んだ右傾化とアメリカ言いなりの大軍拡の下で、今や「新しい戦前」と言われる時代である。

戦争の準備に伴う社会保障の切り捨ては、医療・介護を知る者として断じて許し難い。また、「新しい戦前」と言われる中で、被爆2世として、それを「新しい戦中」には絶対にしない、と言う思いも強い。

昨年、前立腺がんの手術を受けて思いもかけず癌サバイバーになってしまったけれど、まだまだのんびりしていられそうにはない。（明）

謹賀新年

二〇二六年　元旦　民主香川社

国税局と経済産業局に要請
民主商工会の四国４県連

四国４県の民商県連は10日、高松市の高松国税局と四国経済産業局を訪れ、消費税をただちに５％に引き下げることや、インボイス制度の廃止、物価高騰のもと、中小企業・小規模事業者への抜本的支援などを求めました。香川の多田等会長、徳島の山根憲一会長、愛媛の合田政直会長、高知の東谷勝喜会長ら約20人が要請しました。

申し入れ書は「物価高騰や実質賃金の減少が消費の低迷を招き、中小業者の経営危機を深めていると指摘。「地域経済や雇用を支える重要な役割を果たす中小企業・小規模事業者の経営危機を打開し、地域経済の持続的な発展を図るために」として▽物価高騰や人手不足の影響を受ける中小業者や賃上げする中小業者への直接支援策▽消費税の一律５％への減税とインボイス制度の廃止▽「賃上げ減税」が及ばない事業者も含めたすべての中小業者を対象に、賃上げに先行して引き上げ分に見合う直接支援▽原発から撤退し、再生可能なエネルギーへの転換、などを求めました。

申し入れで参加者は「国税庁のデータでも事業者の所得水準が上がっていない。直接支援がないと賃金を上げられない」などと訴えました。

合併号のお知らせ

しんぶん赤旗日曜版にあわせて「民主香川」12月28日付は、2026年１月４日付との合併号となります。１月は18日付、25日付で発行します。

随筆　猫のしっぽ
白方　微風

「えらいこっちゃー」

カリンの実が熟れている。民家の塀を突き抜け天に伸びた枝をしならせ輝く黄色の玉が、暗雲をなぎ払う。

そこに居るのはトウモロコシの君。いつでも赤いセーターとジーパン姿口角泡を飛ばして資本論を語っている。今年の春、関西地方の自宅で黄泉の国へと旅立った。

毎週、バスで郷里の香川へ戻りブロッコリーを栽培していた。夏はスイートコーンを田んぼで直売した。選挙の時、手押し車に白川ようこのポスターを掲げ「こんなことしかできん」と言いながら、立ち寄ったお客さんに「白川リーフ」を開いて語り掛けた。

年金者組合の支部ニュースに、毎月、短歌を寄せた。

○嵐山みなと歩けば沈着さがソロリソロリと沁渡ってくる

○慈雨にブロッコリーが生き返り水を吸い込み急に大きく

○「八章労働日」で「時間の経済」という命題も提起されていて考察深む

二〇二三年十二月、家も田んぼも処分して関西へ去った。検査入院したが退院したと聞いていた。

今年の三月半ば、町役場の玄関でばったり出会った。赤いセーターにジーパンは以前の野良着姿のままだったから一瞬で見付けた。高速バスの乗り場で話すと、「資本論は遂に最終章の地代論に達した」、胸を張って車内へ消えた。

スマホが鳴った。「えらいこっちゃ」久しぶりに聞く口癖だ。「白川さんが全国区とはわしも名前を書けるがな」。

わずか一月余りの後、風の便りに訃報を耳にしんぶん赤旗のお悔やみ欄で確かめた。つい先日偶然出会ったのは誰だったのだろう？